

ESBL 産生 *Edwardsiella tarda* による菌血症の 1 症例

◎佐野 由佳理<sup>1)</sup>、矢野 智彦<sup>1)</sup>、田口 舜<sup>1)</sup>、香月 万葉<sup>1)</sup>、山口 健太<sup>1)</sup>、平野 敬之<sup>1)</sup>  
地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館<sup>1)</sup>

【はじめに】*Edwardsiella tarda* は広く自然界に分布し、様々な水生生物の病原菌として分離されるが、ヒトでは主に腸管感染症の起炎菌として知られている。今回我々は、血液および術創部、喀痰培養から本菌を検出した症例を経験したので報告する。

【症例】80 歳代女性、20XX 年 7 月、食道癌および左甲状腺腫瘍の切除術を目的に当院入院となった。術後 4 日後より手術部位の発赤、排膿が出現、肺炎像も認め、各種培養および血液培養 2 セットが提出された。

【微生物学的検査】血液培養 4/4 本が陽性となり、グラム陰性桿菌が検出された。35°C、24 時間培養を行ったところ、5%ヒツジ血液寒天培地では  $\beta$  溶血の灰色コロニー、ドリガルスキー改良培地では乳糖非分解の半透明なコロニーを形成し、質量分析装置にて *Edwardsiella tarda* と同定された。また、菌液のかわりに培養液を直接使用し AmpC/ESBL 鑑別ディスク（関東化学）を用いて判定を行う耐性菌スクリーニングにおいて、菌名の報告と同日のうちに ESBL 産生菌である事が判明、さらに、同日提出された術創部および

喀痰培養からも同一菌が検出された。

【考察】*Edwardsiella tarda* による敗血症や創部感染では致死率が高く、早期診断・早期治療が重要となる。また、本菌は一般的に多くの抗菌薬に感受性を示す傾向にあるが、今回経験した症例では ESBL 産生菌であったため、迅速な同定と耐性菌スクリーニングにより早期に適切な抗菌薬へと変更できたことで良好な経過をたどった可能性が示唆された。

佐賀県医療センター好生館 検査部  
連絡先：0952-24-2171